

『見上げてみれば』 作…岩本憲嗣

■登場人物

小原恒一(23) 中学校の非常勤講師

井上宣之(15) 中学生・天文学部長

後藤俊子(26) 小原の先輩

斉藤宏(24) 小原の友人

○陽光学園・外観

一面の田園風景の中に唯一つ近代的な建物が建っている。

○同・3年C組・外

洒落たプレートに3-Cと書いてある。

○同・中

小原恒一(23)が黒板に複雑な数式を板書している。

板書を終えて振り返る小原。

教室内は思い思いの服装をした生徒達がノートも取らずにそれぞれ好き勝手な事をやっている。

井上宣之(15)だけが熱心にノートをとっている。

小原、ため息をつき教室の時計を見る。

時計は11時55分を指している。

小原「はい、じゃあちよつと早いけど今日はここまででいいよ。これノートにとっておいてね、次までの宿題だから」

小原、道具をまとめて教室を出る。

○同・廊下

小原が伸びをしながら歩いていると前から校長がやってくる。

校長「あれ？もうそんな時間でしたっけ？」

小原「え、いや、その……」

校長「……ちよūdと良かった。小原先生、実はお話したいことがあったんですよ」

小原「あ、……は、はい」

小原、頭を掻きつつ校長についていく。

### ○小原のマンション・外観（夜）

周囲の田園風景とは不釣り合いな小奇麗

なアパートの階段を小原が上ってくる。

小原が階段を上りきるとそこには後藤俊子(29)が大荷物を抱えて立っている。

小原「後藤先輩！？」

俊子「やあ」

### ○同・居間（夜）

部屋の中を見回している俊子。

お茶を持った小原がやってくる。

小原「来るなら前もって言って下さいよ、ほら心の準備ってやつが……」

俊子「ごめんごめん。どう？こっちは？」

小原「楽しそうに見えます？」

俊子「だってこのアパートだって学校が出してくれてるんですよ？非常勤なのに」

小原「衣食住が揃ってればいいってもんじゃないですよ。ほら、ゆとり教育を目指しての全寮制中高一貫教育とかって謳ってますけど実際は教師も生徒も本当にやる気があるんだかって感じで」

俊子「ゆとりがありすぎるんだ」

小原「ええ、だから来年こそは採用試験に受かってですね、先輩と同じような進学……」

俊子「ごめん、あたし来年日本にいない」

小原「え？」

俊子「結婚するの。職場の人と。んで、来月にはアメリカ行き」

小原「あ、アメリカ？」

俊子「相手がネイティブの先生なのよ。だからさ、小原君に借りてた物全部返そうと思って。あ、あと私の使わなくなったテキストも持ってきたから処分しといて」

俊子、大荷物を小原に渡す。

俊子「んじゃ、終電なくなっちゃうから」

俊子、振り向かずに行く。

小原、荷物をあけると沢山の理科のテキスト。

小原「俺は数学教師だよ。先輩……」

○ 陽光学園・部室棟・天文部部室前（夕方）

小原が数冊のテキスト片手に来る。ドアには手書きの天文部のプレート。

小原「入るぞ」

小原、扉を開ける。

井上が夕日に照らされ本を読んでいる。

小原「井上？天文部ってのはお前だったか？」

井上「あれ？小原先生がどうして？」

小原「校長に頼まれてさ、天文部の顧問が産休だから代理顧問。俺非常勤なのに」

井上「そうなんです。宜しくお願ひします」

小原「で、普段はどんな活動を？」

井上「喋ってました。星のこととか」

小原「ああ駄目だ。俺理科は物理しかとってないから話通じないよ」

井上「あれ？でもその本は？」

井上の手には天文関係の書籍

小原「ああ、これは俺の……知合いの理科教師からもらったんだ。やるよ」

小原、井上にテキストを渡す。

小原「困ったな。一応顧問だから活動が終わるまでついてないといけないんだよ」

井上「じゃあ僕が教えますよ。星のこと」

小原「え、ああ、うーん」

小原の携帯が鳴る。

小原「うわ、あー来た来た！すまん井上、活動は明日からだ。今日は今すぐ帰ってくれ」

小原、携帯片手に部室から走り去る。

井上、受取ったテキストの中に「天体望遠鏡入門」という本を見つける。

井上が振り返ると部室の片隅に埃を被った天体望遠鏡が置いてある。

### ○居酒屋・中（夜）

小原と斉藤宏(27)が並んで飲んでいる。

小原「酷いでしょ？先輩だって絶対俺の気持ち知ってたはずだって！」

斉藤「はあ。何かと思えばそんなことだもんな。あのな、俺がこっち来るのに何時間かかっているとってんだ？」

小原「それはさ……」

斉藤「お前の愚痴聞く為に電車で2時間かけて来たかないって。いい加減にこっちで友達つくれよ」

小原「無理無理。ウチの教員なんてくたびれたセミリタイア組ばかりだよ？かといってこんな過疎の村に出会いたくないし」

斉藤「じゃあ何か？なんかある度に俺は東京から呼び出されるわけか」

小原「そこはほら、友達でしょ？」

斉藤「友達だけど保護者じゃないんだ。そんなにかまってられないぞ」

斉藤、ビールを飲干し席を立つ。

小原「あれ？どこ行くの？」

斉藤「俺も明日仕事あるの。ま、元気だせ」

斉藤、自分の飲み代を置いて去る。

### ○陽光学園・天文部部室（夕方）

小原が無気力に扉を開けて入ってくる。

井上が天体望遠鏡をいじっている。

井上「あ、丁度いいところに。先生、これ直せますか？」

井上、小原の前に望遠鏡を置く。

井上「壊れてて使えなかったんです。でも先生が昨日この本持ってきてくれたから」

井上、「天体望遠鏡入門」を差し出す。

小原「あ、これ先輩の…」

井上「反射鏡の角度調整が上手くいなくて。そういうのだったら先生詳しいですよね」

小原「ん？ああ、多分」

井上「お願いします」

井上、本を無理やり小原に手渡す。

小原、少し悩んで望遠鏡をいじりだす。

○同・天文部部室（夜）

小原、望遠鏡の前で大きく伸びをする。

小原「よし、これで大丈夫だろ」

井上「ありがとうございます」

小原「さ、じゃ今日はもう遅いし…」

井上「屋上行きませんか？使ってみましょうよ」

○同・屋上（夜）

井上が望遠鏡をセッティングしている。

空を仰ぐ小原。そこには満天の星空。

小原「驚いたな、こんなに星でてるんだ」

井上「ですよね」

小原「東京じゃ絶対拝めないな」

井上「そんなことないですよ」

小原「え？」

井上「僕も東京に住んでましたけど、東京でも冬になれば結構見えますよ」

小原「そうか？」

井上「空を見ないからですよ」

小原「見るぞ、七夕の日とか」

井上「夏じゃないですか。冬空を見ないから星空も見えないだけです。ほら、先生」

井上、小原に望遠鏡を覗くよう薦める。

望遠鏡を覗きこむ小原。

小原「凄いなこれ。こんなに見えるんだ」

井上「先生も星のこと好きになりました？」

小原「そりゃこれ見たら好きになるよ」

望遠鏡に夢中になる小原

井上「ちよつと先生、いつまで覗いて…」

小原「あぁごめん。代わる」

井上「そうじゃなくて、望遠鏡で覗くのもいいけど肉眼で見える星は肉眼でも観察しないと」

小原「なんで？」

井上「先生さつきいじつてたじゃないですか。望遠鏡は鏡なんですよ。」

小原「それがどうした？」

井上「先生もう一度覗いて下さい」

望遠鏡を覗く小原。井上が望遠鏡を地上の方に向ける。

小原「おお、さかさまに見える」

井上「鏡ですから」

小原「そうか」

井上「だから、本当に好きになった星は肉眼でも観察するようにしてるんです」

小原「なるほどね、こつちが本当の姿なんだ」

小原と井上、星空を見上げている。

小原「あれはあれだろ？カシオペア座」

井上「オリオン座ですよ」

小原「そうか、ちゃんと勉強しないといけないな」

井上「好きになればすぐ覚えますよ」

小原「よし、井上、お前昨日渡した本返せ」

井上「え、あ、はい」

ポケットに手を入れ空を見上げる二人。

【終】

※ご利用上の注意※

- ・ 本脚本はどなたでも無料にてご利用いただけます。
- ・ ご利用に当たつての改変などに制限は設けておりません。皆様のご都合に応じて自由に改変頂いてかまいません。
- ・ 本脚本をご利用頂く際は必ず作者 (gumba1227@hotmail.com) までメール報頂けますようお願い致します。
- ・ 但し、練習での使用などの場合はご連絡の必要はございません。
- ・ 連絡が必要かどうかの基準は以下の通りでございます。

※連絡不要の場合

- ・ 仲間内で集まつての練習でのご利用。
  - ・ Skype などを通じての第三者の聴取・視聴が出来ない形でのご利用。
- ※連絡が必要となる場合

- ・ ツイキャスやニコ生など第三者の聴取・視聴が可能な状況下でのご利用。
- ・ 連絡を要する形でのご利用の際は、必ず作品名・作者名をどちらかに記載いただけますようお願い致します。

その他ご不明な点ございましたらお気軽に下記までご連絡下さい。

[gumba1227@hotmail.com](mailto:gumba1227@hotmail.com) (岩本)